ポジウム」開催や経済同

公開の

「日中美術シン

## 日 中 文 化 交 流

石

佐藤純子(後右)

家主席に就任。

## 1993年

田是也、 点だった。中国では江沢民総書記が国 年体制が終わるなど戦後政治史の転換 立内閣が成立、自社両党による五十五 玖磨各代表理事、白土吾夫専務理事に |中日友好使者||の称号が贈られた。こ 日本は新党ブームの中で細川連 (孫平化会長) から当協会の千 東山魁夷、司馬遼太郎、團伊 な交流が続く中で、創立 氏の再度の訪中など多彩 者訪中団に協力、呉清源 友会による初の女性経営 二十周年を迎えた中日友

副団長)一行六名が出席。 中国美術家代表団(王琦団長、 ウム」(主催・日本経済新聞社、当協会、 **刻字協会訪中団**(長揚石、 中国刻字芸術作品展開幕式 〇 4 月 美術評論家連盟、中国美術家協会)に 初見一雄両顧問、七澤象聲団長、 ◎1月 日本刻字協会訪中団(長揚石、 家協会刻字研究会主催)に出席の日本 ◎3月 「,93東京・日中美術シンポジ 中野暁参与)一行十八名訪中。 網代澄亭両副団長、斎藤瑞仙秘 洛陽での刻字シンポジウムと 初見一雄、 (中国書法

〈九三年の主な交流〉 靳尚誼 高際 幕。 岩澤重夫、金山茂人、佐藤純子、 貴代秘書の諸氏) 訪中。北京の中国美

栗原小巻氏ら)公開。日中文化交流協 会代表団(髙山辰雄団長、矢代静一、 訪中。中国映画『乳泉村の子』(原題 堀玄伸両参与、 青鳥副団長、斎藤瑞仙秘書長、中野暁、 直江勝司、三宅梵、山本芳雅らの諸氏) 高際翠邦各顧問、 清涼寺鐘聲」、 監督・謝晋氏、 佐藤苔石、三木翠耿、 七澤象聲団長、 出演・

夫団長、霍達、張炯、林雨純、 妻らが出席。中国作家代表団 術館で「加山又造美術作品精選展」 開幕式に加山又造、 通訳の諸氏)来日。 加山みとり夫 李錦琦 (瑪拉沁 日本

団長、林輝秘書長、中澤桂、高丈二、

◎ 7月 日本音楽家代表団

( 團伊 玖 磨

小林武史、大和田葉子、小谷彩子の諸

国書道研究会」訪中団(金 ◎5月 日本「第九回中 美智子の諸氏)訪中。 太郎、阿久井長則、 有三、長谷部楽爾、 光昭介団長・館長、 出光美術館」代表団 木村 中尾 山根 出

本文弥氏一行(岡本文弥、 氏)来日。新内演奏家の岡 王俊国、鄭全来秘書の諸 克勤、劉同元、宋鎮鈴、 使着任。中国出版代表団 訪中。**徐敦信駐日中国大** 山、初見一雄らの諸氏) 子聴松団長、高橋静豪秘 (桂暁風団長、王新善、 稲田和浩、 永井啓夫、林 根岸鵞 学者訪中団 皆子、小宅容義、 **俳句協会代表団**(金子兜太団長、 参加。日中文化交流協会代表団 術劇院と『東京の月』合同公演、 ◎9月 上海で劇団民藝が上海人民芸 貴代秘書) 一行十九名訪中。 (加藤一郎団長、



和子夫人(前右

二)。汪大鈞(前左

をもてなした に贈る自著に、献辞を書く林林氏 した金子兜太氏(中)と皆子夫人(右 現代俳句協会代表団団長として訪中

**團伊玖磨代表理事**(前左二)、

に訪ねた劉忠徳文化相(前右

同席した團紀彦(後左)、

の諸氏と。和子夫人は、自身が調えた中華料理で-

一九九三年九月二十七日 北京・林林氏宅 えり子、

岡本弥生、

宮之助、

中野暁の諸氏)

協会が協力。 野村昭子、岡本正巳らの諸氏訪中、 名訪中。**杉村春子代表理事**、 書店刊) ◎ 6 月 **人友好訪中団**(石黒清介団長、大滝貞 賢副団長) 一行九名来日。**日本現代歌** 承志夫人、廖暉団長・廖氏長男、王效 **語版出版記念訪日団**(経普椿顧問·廖 其琛副総理兼外交部長歓迎夕食会開催。 訪中。当協会など日中友好六団体が銭 一副団長、佐藤祥子秘書長) 出版記念会開催、 「廖承志文集」日本語版(徳間 同文集日本 一行十五

栄三両副団長、 中団(持田紀男団長、 三団長) 訪中。**埼玉県民俗芸能友好訪** ◎8月 氏) 訪中。 日本少年野球選手団 金子眞土秘書長、 山田紀一、 (金行陽

会などが後援、公演には劇団民藝の内 秘書長、石外克喜、鈴木辰紀、 行十八名訪中。日本「民法・環境法\_ 相原左義長秘書長、佐藤祥子秘書) 哲郎団長、田沼武能、秋山駿、佐藤純 山鶉、秤屋和久、梅野泰靖らの諸氏が 原信之秘書の諸氏) 横川健の諸氏)訪中。日本・現代 牧石剛明両副団長、 (三浦 金子 当協



小学館を訪れ相賀徹夫相談役(右一)、相賀昌 宏社長(右二)と交流を深めた中国出版代表団 の桂暁風団長(左一)。鄭全来氏(左二)と



-1993年5月24日

東京



紹興を訪れ、女性革命家秋瑾の故居を参観 その事績に思いを馳せる協会代表団の中根寛 副団長(左)と末松良介氏 ---1993年11月28日



日中美術シンポジウムに出席するため来日した王琦団 長(右二)ら中国美術家代表団一行を歓迎しあいさつを 述べる河北倫明美術評論家連盟会長・当協会常任理事 一)。シンポジウムは「日本と中国における近代美術 とは何か」をテーマに開かれた 1993年3月27日 東京



30年ぶりの再会を喜ぶ中国作家代表団の瑪拉沁夫団長 二)と城山三郎氏(右一)。張炯(左三)、李錦琦(左 一)両氏と -1993年4月19日 鎌倉

氏。 村喜久美宇都宮グランドホテ 演劇家代表団 丸美繪らの諸氏)訪中。 前野昭吉、伊藤礼、伊藤啓子、 問、江崎誠致団長、宮脇磊介、 ル会長、長谷川智恵子日動画 長野和枝、 村上昭春、斎藤宜郎、笠原淳、 (呉清源名誉顧問、 郎副社長、 大島正雄、大島政文、中 日本文化界囲碁代表団 木村美智子秘書らの諸 口典雄、 白川正芳、大門武 古賀宏一、松下砂 柳内光子山一興産 (森塚敏団長、 原信之秘書 芮廼偉顧 日本 会が、白寿をぜひ北京で祝いたいと提 中団を組織して中国を訪問すること十年、中国曲芸(語りもの芸能)鑑賞訪 とした団長ぶりは、日中双方から敬意 は今も続いてい その意志を継ぐ、 残念ながら記録を伸ばせなかったが、 コードである。 案して実現した。 年。その尽力を多とした中国曲芸家協 初の訪中は六四年だが、 新内演奏家の岡本文弥師。岡本師の最かに凌ぐ、白寿の訪中を果たしたのが をもって迎えられた。この米寿をはる 首である。当時、

活者マーケティング代表、中ビス社長、渋谷貞子CPM生 理事、白土吾夫専務理事に「中 司馬遼太郎、團伊玖磨各代表 ズ社長、奥谷禮子ザ・アー 絹子団長・東京ソワール社長、 経済同友会女性訪中団 日友好使者」の称号を授与。 に対し、千田是也、東山魁夷、 わたる日中友好事業への貢献 大河原愛子ジェーシー・フー 天瀬須美子フラッシュ社長、 今野由梨ダイヤル・サー 中日友好協会が、長年に 河野栄子リクルート専 (児島

訪

周文英、黄振春、石永菁の諸氏)来日。一行(劉忠徳文化相、汪大鈞、劉玉山、 沢元彦、 根寛副団長、 **化交流協会代表団**(杉村春子団長、 許金平、袁敏道の諸氏)来日。日中文 ◎11月 中国人民対外友好協会代表団 協会が協力。 会に学術図書 金原出版 (陳昊蘇団長、文偉、 木村美智子、 (金原秀雄社長)が中華医学 廣瀬量平、 (第二十次分) 馮福生、 小暮貴代秘書 末松良介、 贈呈、 郁鈞剣、 井中

◎ 10 月

中日友好協会創立II

白土吾夫専務理事、佐藤純子、

十周年記念行事に出席のため、

横川健両常任理事の諸氏が訪

本文化界代表団団長として三度目 そして最後の訪中を果たした折の べし」、協会の顧問を務めた歌 登 れりと 米寿を越え 路の残雪に刻みおく 米寿とはいえ矍鑠 万里 一九七三年に 長 城

日

その

後、

岡本師自身、

中

-国曲芸界との交流

協会の最高齢訪

八三年から毎

協会創立者の一人であ

ベル文学賞受賞もこの年。

〈九四年の主な交流〉

国際空港の開港、大江健三郎氏のノー

(元日本経済新聞社会長)が逝去

## 1994年

経て六月に村山連立内閣が成立。 経済新聞社会長)の逝去という悲しみ 催に尽力した圓城寺次郎顧問(元日本 に見舞われた。三月に細川首相が訪中。 の文物・美術展の相互開 を組織し、また「美」に 次にわたり産業界訪中団 り、筆頭代表理事だった こだわった格調高い数々 演出家の千田是也氏、 短命な羽田連立内閣を 関西 数

副団長、 十名訪中。 山青桃、 高際翠邦団長、網代澄亭、 山本芳雅、 藤苔石、 直江勝司、三木翠耿、三宅梵、 薄田東仙秘書長、 野村静谷、 日本刻字協会福建省訪問団 渡辺寒鷗、 横山如水らの諸氏)一行三 堀玄伸各参与、 初見一雄各顧問、 中野暁、 斎藤青鳥両

〇 2 月 野宮セツ、花柳衛吉、 節子団長、 〇 3 月 重人常任理事らが出席。 協会など日中友好六団体が主催、 黛民族舞踊文化財団代表団 朱鎔基副総理歓迎夕食会、当 四宅豊次郎、 黛莉香の諸氏 日川キク子、 都留 (堂

当協会が協力。

圓城寺次郎顧問

三菱商事常務、 藤晃日航専務、志賀學日本鋼管副社長、 三菱マテリアル専務、加地孝義ナビッ 役、 啓夫らの諸氏)と当協会の招きで来日。 倉内英孝住友ベークライト副社長、 クニカルシステム社長、楠本昌三住友 クスライン特別顧問、 佐々木喜朗新日鐵副社長、長坂善四郎 経済同友会訪中代表団(渡辺滉団長 劉蘭芳らの諸氏)、 長各副団長、 三和銀行頭取、愛甲次郎ソニー専務 笙名誉団長·主席、 〇 4 月 (岡本文弥、吉川英史、川上桂司、 井上正彦東和証券社長、太田好彦 中国曲芸家協会代表団(駱玉 生野重夫セゾン生命相談 熊井浩日本金属相談役、 濱中昭一郎日本通運社 「中国曲芸友の会」 羅揚団長、呉宗錫、 桐原敏郎日本テ

空副社長、 井物産顧問、 紙社長、杉田敬一三 エヌ・イーケムキャ 野々内隆日立製作所 島吉朗東京興産社長、 喜ケーヨー会長、 菊雄エイトレント社 首藤勤王子油化合成 ス化学会長、 コ会長・社長、 郎ユニ・チャーム 長野和吉三菱ガ 長谷川章全日 中村雅哉ナム 辰野克彦辰野 橋田泰雄 永井幸 高原慶 中塚

> ◎ 5 月 総研副理事長、武蔵正道富士建設社長 馬淵康昭楢崎産業社長、三宅純一日本 災海上相談役、松本和男三和総研会長、 平子勝日立造船副社長、 団長、岩崎加根子、佐藤純子、司修、 枝実秘書長・三和銀行専務、 井専務、宍戸正経済同友会常務理事、 柳内光子山一興産社長、 ラスチックス相談役、 安川電機副社長、花村理日興証券顧問 **子常任理事らの諸氏)一行五十二名訪** パンエナジー副社長、 日中文化交流協会代表団 日本・歌人友好訪中団 角理羽子の諸氏)訪中。 本田精一日産火 藤井暉久呉羽プ 佐藤祥子秘書 吉田進日商岩 福田武二ジャ 木村美智 (水上勉

夏子の諸氏)訪中。 新井貞子、野澤雅美、 長、細田悦子、太宰瑠維、影山公子、 芳美団長、近藤とし子、 岡田昌子、 木塚

**本刻字協会訪問団**(渡辺寒鷗団長、 連合会代表団(李倫新団長、 中団(石橋鯉城団長、清水透石副団長) 氏)訪中。「**第十一回中国書道研究会」訪** 本印刷ATS事業部長、 裳華房社長、下中弘平凡社社長、 社長、中村義治教文館社長、 出版代表団 佐藤純子、横川健の諸氏)訪中。日本 伊玖磨団長、團和子、堤清二、堤麻子、 ◎6月 日中文化交流協会代表団 止東大出版会専務理事、 行二十一名訪中。**上海市文学芸術界** 野村静谷両副団長、 第一回国際刻字芸術展祝賀日 (安江良介団長・岩波書店 張恵玉の諸氏)来日。 佐藤祥子の諸 佐藤政一大日 秦怡、 吉野達治 上



日 中 文 化

次団長(中)、岩橋邦枝氏(左) 活に触れる日本作家代表団の黑井千 甘粛省の回族の村を訪れ、 九九四年十月十二日 庶民の生 蘭州

に自筆の書を贈る文遅団長 中国人民対外友好協会代表団が来日、土井たか子衆議 院議長(左)を議長公邸に訪ね敬意を表した。 ——一九九四年十一月七日 土井議長 東京

ット会長、



日中文化交流協会代表団が中国文連の招きで訪中、 李瑛執行副主席(右一)に、初めて訪れた中国の印象 を語る岩崎加根子氏(中)。水上勉団長と

-1994年4月18日 北京



那珂太郎、

浅野利昭



上海文連代表団が来日、新藤兼人(左・ 羽信子(右二)夫妻に、1962年の来日の際、伊 豆・松崎のロケ地を訪ねた思い出を語る秦怡 副団長(左二)。張恵玉氏(右一)と

1994年6月29日

◎8月 雲南省舞蹈家協会訪日代表団

行四十二名訪中。 斎藤瑞仙副秘書長、

中

野

飛参

伊藤礼、

斎藤宜郎、

笠原淳、

学術医学図書(第二十一次分)を贈呈。 日本「民法・環境法」学者訪中団(野 中華医学会、同上海分会、遼寧分会に ◎9月 金原出版(金原秀雄社長) 協会が協力。 黛民族舞踊文化財団の招きで来日、当 (那家佐顧問、聶乾先団長、劉太平副団 **柯好弘団長、浅野直人秘書長、** 施松建、李景栄の諸氏)、 植木硄雄、 山本寅 が

日本出版代表団が訪中、劉同元浙江省出版総社社長 (右三)との再会で話がはずむ安江良介団長(左二)。 中村義治(右一)、佐藤政一(右二)、下中弘(左三)、 山下正(左一)の諸氏と 1994年6月6日 杭州

> 留重人常任理事が出席。 中国文学芸術

る中国文学芸術界連合会代表団が来 映画監督の謝晋氏(左四)を団長とす 先で餅をつく董良翬氏(右 一行は岩手県北上市の農家を訪 家族あげての歓待をうけた。 九九四年十一月五日

◎ 11 月 枝、立松和平、横川健の諸氏)訪中。日団(黑井千次団長、髙井有一、岩橋邦阪裕二らの諸氏)訪中。日本作家訪中 当協会など日中友好六団体が主催、 野昌雄副団長、佐藤祥子秘書長)訪中。 長、 本・現代歌人協会代表団(加藤克巳団 窪田章一郎顧問、窪田トモ子、 **栄毅仁国家副主席歓迎昼食会、** 水

遅団長、呉瑞鈞秘書長、 界連合会代表団 開催。千田是也代表理事 道会など、後援・当協会など)東京で **墓文物展**(主催・毎日新聞社、 「シルクロードのまもり」中国・木簡古 ◎12月 中国演劇家代表団(胡可団 旭、許金平、袁敏道の諸氏)来日。 中国人民対外友好協会代表団 が逝去。 李華藝の諸氏)来日。 朱根全秘書の諸氏) (謝晋団 韓嗣儀、 毎日書 文来

の最初のおよそ二十年を書き記すうえ 会の本史が始まったとすれば、氏はそ をくだかれた。 など協会の組織拡大と基盤の強化に心 して代表団を編成し、中国を訪問する 結び、一方ではその人脈をフルに活か 会長とは常に敬慕の念をもって親交を 語り種となっている。中島会長、井上 えた七六年の「中国青銅器展」は今も みずから指定して名にし負う逸品を揃 う文物・美術展招来の数々、特に氏が 同様。氏の磨き抜かれた審美眼にかな **賞人とでも言おうか。中国に対しても** 経済・情報人、趣味は、 せた人士はいない。この場合、本業は 余人をもって替え難い、優れた役 に最高レベルで、見事に両立さ氏ほど本業と趣味を、しかも共 なった。下世話な言いかただが、 国交正常化によって協 美の追求・鑑

割を果たしたことは間違いない。